

第 29 回（令和元年度 第 4 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 2 年 3 月 5 日（木）14：00～
- 場 所 黒部市民会館 1 階 101 会議室
- 出席者 協議会委員 18 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	松井 明澄	所長代理 佐伯 滋	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	高尾 且英	本人出席	
		地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	谷島 傳俊	本人出席
	黒部市民生委員児童委員協議会長		田村 豊嗣	本人出席	
	特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー		菅野 寛二	本人出席	
	黒部市老人クラブ連合会長		村上 勝悦	本人出席	
	くろべ女性団体連絡協議会長		新村 恵子	本人出席	
	公募委員		中谷 靖子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	欠席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	佐々木凜太郎	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	織田 幸治	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川僚一	本人出席	
		富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長	清水 圭	本人出席	
		地域交通・新幹線政策課長	川端 康夫	本人出席	座長
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	事務局長 坂井 英次		
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		浅野 慎一	本人出席		
Y K K 株式会社 執行役員 黒部事業所長	石橋 剛	事務局長 石田 康博			
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	羽柴 進一	本人出席			
宇奈月商工振興会					

- 事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、畠山理事、廣木課長、神保班長、櫻田班長補佐、大坂主事

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) バス路線の運行形態等の変更について・・・・・・・・・・資料 2
- 4 協議事項
 - (1) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（案）について・・・・資料 3
- 5 その他
- 6 閉会

開会

- 定刻通り開会した。
- 進行：廣木課長

あいさつ（大野市長）

- 市長より挨拶を行った。

本日は、第 29 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位においては、ご多用の中ご出席いただき、ありがたく思う。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げる。

前回協議会以降の話題については、まず 12 月 25 日に富山地方鉄道荻生駅が新しい駅舎で利用を開始し、来月からは本格的に明峰中学校の生徒が利用を開始することになる。年明けからは、記録的な暖冬により、市内の平野部ではほとんど積雪がなかった。例年であれば冬期間はまとまった積雪により公共交通機関に何らかの影響が生じるが、今年は積雪による影響はほとんど耳に届いていない。話題が変わるが、1 月にあいの風とやま鉄道、2 月に北陸新幹線のダイヤの発表があった。それぞれ、これまでのダイヤと大きな変更はないと聞いているが、今年は北陸新幹線及びあいの風とやま鉄道が開業して 5 周年を迎えることになる。本市においても、この開業 5 周年を市全体をアピールする機会と捉え、「北陸新幹線開業 5 周年」を冠した事業を、年間通じて実施する予定である。年明けから非常に懸念されていた新型コロナウイルスについては、最近では全国各地のイベント開催にも重大な影響を及ぼすまでに至っている。交通事業関係においても、ツアーバスの運転手やタクシー運転手の感染事案や感染者が利用していたケースが報告されている。また、北陸地域においても、感染事案や感染者の旅行による滞在履歴が確認されている。県内の公共交通機関も例外ではなく、各事業者については、運転手や利用者に対する十分な対策を講じているものと思うが、引き続き、対策を徹底するようお願い申し上げます。また、新型コロナウイルスの影響かは一概には判断できないが、本市の 2 月の黒部宇奈月温泉駅乗降者数調査においては、平日の 6 日（木曜日）は昨年度とほぼ同数の 1,413 人であったが、休日の 9 日（日曜日）は、1,561 人と開業以来、最少の乗降者数となった。今後、本格的な観光シーズンを迎える本市にとっては、非常に心配な状況であり、一日も早く事態の収束が望まれるところである。

最後に、本日の会議内容については、報告事項が 2 つ、協議事項が 1 つある。報告事項では、「経過報告」及び「バス路線の運行形態等の変更」について報告させていただく。また、協議事項の「第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（案）」については、今までの本協議会や作業部会での議論をとりまとめたものとなっている。委員には、本市の公共交通に対し様々なお考えがあると思うが、本計画がより良いものとなるよう忌憚のないご意見をいただきたい。

報告事項

●事務局より、資料 1、2 に基づき報告を行った。

○浅野委員

別紙 1 の新幹線生地線の路線図に関し、廃止する 2 つのバス停の名称がどちらも「黒部インター口」になっているが、正しくは一方が「中村」だと思われる。

○事務局

委員のご指摘の通りであり、訂正したい。

協議事項

（1）第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（案）について

●事務局より資料 3 に基づき、第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（案）について説明を行った。

○川端座長

第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（案）に対して皆さんから意見を頂きたい。

○浅野委員

前回の協議会で委員からの意見や質問があったが、これに対する返答は用意されているのか。また、2 月に行われた作業部会での議論の内容とこれに対する対応について今回の協議会で説明してほしいという要望があったと聞いているが、併せて説明いただきたい。

○事務局

2 月に行われた作業部会では、路線バスの見直しの方向性について概ね了承をいただいているが、もう少し計画書の中で収支の問題を浮き彫りにするようにとの指摘をいただいている。なお、前回の作業部会では、主に路線バスの見直しにおける意見が議論の中心となったほか、生地駅周辺に関する意見もあった。

○浅野委員

2 月に行われた作業部会では、具体的にどのような意見が出ていたのか。

○事務局

バス路線の見直しについては、作業部会では赤字額が 500 円を上回った場合に路線の見直

しを検討するものとしていたが、各路線を赤字額の 500 円で一律に線引きするのではなく、全体収支の底上げを図るべきであり、路線を分析する際の目安として赤字額の 500 円を表現するようにとの意見をいただいている。

生地駅については、I-TOWNの整備構想について指摘をいただいているが、この構想を今回の網形成計画に盛り込むことは時期尚早と考えている。しかし、公共交通の視点から見ると、I-TOWN整備構想は生地駅の利用促進にもつながることであるため、計画の中で直接的に明記していないが、生地駅の利用促進に関する箇所では表現できないか検討している。例えば、63 ページの事業 2 の中では黒部駅と生地駅それぞれについて利用促進を図ると記載することで前述した内容を表現している。

○浅野委員

事務局に説明いただいた内容については、素案の時点では記載されていなかったが、作業部会での議論を踏まえ盛り込んでいただいたと捉えている。

事業 2 に記載されている「環境拠点」について説明していただきたい。

○事務局

「環境拠点」は誤字であり正しくは「観光拠点」である。この表現については、黒部市総合振興計画を踏まえたものである。

○浅野委員

事業 25 ではパーク＆ライド用駐車場に関する記載があるが、黒部駅のみならず生地駅についても考えていく必要があると思う。また、今回の計画案では「必要に応じ、市内鉄道駅のパーク＆ライド用駐車場の整備を検討」という表現があるが、計画素案では「検討」という表現はなかった。計画素案から計画案で表現を変更した理由を説明していただきたい。

○事務局

事業 25 の黒部駅に関する記載内容については、ある程度具体化されている内容を盛り込んでいるが、市内鉄道駅のパーク＆ライド用駐車場に関する記載内容については、現段階では整備箇所に関する具体的な青写真がなく市民等への誤った認識を避けるため、表現を変更させていただいた。

○浅野委員

事務局の説明を踏まえると、事業 25 の名称は不適切ではないか。今回の計画案で示されている事業 25 の名称は「駅施設の修繕・改善とパーク＆ライド駐車場の整備」であるため、基本的にはパーク＆ライド用駐車場を整備する方向で進めていただきたい。併せて、その中に生地駅も盛り込んでいただきたい。

○事務局

黒部駅については整備に関する意思表示を行っており、その他の鉄道駅については整備の必要性を事業 25 の中で表現しているつもりであるが、先ほどの説明のように具体的な計画が

ないことから、このような表現にさせていただきました。

○川端座長

現段階では、黒部駅を優先的に整備する方向という認識でよいか。

○事務局

座長のご指摘の通りである。

○浅野委員

（これまでの説明では、）前回の協議会での意見に対する返答はあったのか。

○事務局

前回の協議会では、主に公共交通の現状維持などについての意見をいただいております、これらの意見を集約し、今回の計画案に反映させたつもりである。

○川端座長

事業 25 の「整備を検討」という表現は前向きに検討するという意味でご理解していただきたい。

○長谷川委員

本日は運輸局の佐々木企画課長からの意見を伝達したい。

まず、計画案の 62 ページでは各公共交通について「維持及びさらなる利便性向上」と記載されているが、計画に「現状維持」という表現を位置付けることに抵抗があるため、このような表現になっているのかもしれないが、課題がないのであれば無理に「利便性向上」という表現を用いる必要はなく、「現状維持」という表現でもいいのではないかと。例えば、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道に関する事業で「さらなる利便性向上」という表現があるが、現時点でも事業者による十分な取組がなされている可能性もある。これについては、現状維持で十分な部分と現状維持より改善を目指す部分の濃淡をこの協議会の委員の中で共有する必要があるのではないかと申ししていた。これに関しては、活性化再生法の基本方針においても網形成計画に記載する事項として、「新たに実施する事業や公的負担を伴う事業のみならず、既存路線の維持といった継続的な取り組みなども網羅的に記載すること」とされているため、この点に留意していただきたい。

次に、アンケート調査については、その結果が計画案にどのように反映されたのかがよくわからないため、直ちに計画に反映させることは難しいかもしれないが、アンケート調査結果を活かせるような方向性を考えていただきたいと申ししていた。

○事務局

まず 1 点目の意見については、人口が減少する中で利用者数を現状維持しているのであれば、事実上、利用者数が増加していると捉えることができるであろう。また、このような市が策定する計画では、「現状維持」という表現に対しお叱りを受けるケースもあるため、今回

の計画案では、利便性を向上させ利用者を増やすという前向きな表現にしていることをご理解いただきたい。

次にアンケート調査の結果については、63 ページ以降に記載している計 32 事業の中で全てを表現しきれているわけではないが、アンケート結果に沿って事業を進めていければと考えている。

○川端委員

せっかく実施したアンケート調査であるため、有効に利用していただければと思う。

○谷島委員

路線バスの利用者一人当たりの赤字額は平均 355 円となっており、人口が減少していく中で、公共交通利用者を増加させていかないと赤字額の改善は難しい。公共交通利用者を増加させるためには、市民の足を維持するために市や事業者が赤字額を負担しながら公共交通を運行しているという実態を市民に知ってもらうべきだと思う。市民が市や事業者負担をかけたという意識を持たなければ、現在の状況が変わっていくのではないかと。また、路線ごとに収支が平均値からどのような状況になっているかということ、市の広報等を活用しながら市民に知ってもらう取組が必要ではないか。その上で利用促進の取組を実施すべきではないか。

○事務局

住民への周知方法については、「公共交通でいこう！（フリーペーパー）」等を含めて、今後、検討していきたい。なお、各路線の利用状況については、池尻線、石田三日市線、生地循環線、愛本コミュニティタクシーの 4 路線については、概ね 3 か月に 1 回のペースで、それぞれの自治振興会に対し利用実績を周知しており、官民による利用促進策の検討に活かしている。

○川端座長

作業部会でも、路線バスの見直し基準としての赤字額の取り扱いについて活発な議論があり、500 円という数値が独り歩きしてもよくないという意見や、行政がどの程度の額を負担しているのかということをも市民に伝えるべきという意見もあった。今回の計画案の中では、路線の固定化を避けつつ利用者を増加させるための工夫等がしやすくなるよう、見直しのラインを示しているものである。利用促進のためには、該当する地域の住民に現状を周知することは重要であろう。

○浅野委員

78 ページの PDCA サイクルについて、バス路線の運行ルート等については概ね 3 年ごとに実施するとのことであるが、今回の新幹線生地線の路線変更の例のように、何か不都合などがあればその都度協議し見直しするという認識でよいか。

○事務局

委員のご指摘の通りである。バス路線については、一度見直した後は、概ね 3 年間は様子

を見ることとし、その間に問題等があればその都度改善するという考え方である。

○川端会長

他に意見がなければ、本件については概ねこの計画案で進めていきたい。ただし、本日は時間の都合により全員から意見をいただけなかったので、何か意見があれば事務局に連絡いただきたい。委員からの意見を踏まえ、修正した後にパブリックコメントを実施し、その結果を次回の協議会で皆さんに示したいと思う。

その他

●事務局よりパブリックコメントの予定について説明を行った。

パブリックコメントについては、3月11日から3月30日の期間に、黒部市都市政策課及び宇奈月市民サービスセンター、各地区の公民館で閲覧できるようにしたいと考えている。なお、広報では、既にパブリックコメントの実施期間について示してある。

閉会（谷島委員）

●谷島委員より挨拶を行った。

本日は、長時間にわたりご協議いただき、ありがたく思う。また、川端座長には、円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。冒頭のご挨拶にもあったが、国内のイベントや交通機関に影響を及ぼしている新型コロナウイルスの1日も早い収束が望まれる。第2次黒部市地域公共交通網形成計画（案）は、これからの本市の公共交通の枠組みと方向性を形作るものである。本計画に対し、様々な考えはあると思うが、地方都市にふさわしい公共交通のあり方を考えるという点では、ここにいる全員の考え方が一致しているものと思う。来年度以降、本計画が順調に進捗すること祈願する。本日は、誠にありがたく思う。

以 上